# 健康新生児の管理に関する研究

# 総　括　報　告　書

分担研究者　山　内　逸　郎

## 分担研究目的

出生直後の新生児をどのようにcareするかは，古くて常に新しい基本的課題であるが，近年ほとんどすべての正常分娩が病院の業務の中に取込まれるようになって以来，医療の変遷に伴って，健康新生児の取扱いには幾多の変革があった。今後これをどのように取扱うべきか検討することが，本研究の課題である。特に新生児の皮膚のcare―臍帯のcareを含めて―を如何におこなうかが，この研究の目的である。

## 協力研究者の構成

全国各地の地域的相違を反映した実情を把握し得るように，北海道，東北関東，中部近畿，中国四国，九州，の各地から，正常新生児の取扱いに関連の深い小児科医，産科医を協力研究者に選び，研究班を構成した。即ち山内逸郎（国立岡山病院）を長として，南部春生（札幌市天使病院），赤松 洋（日赤医療センター），鳥居昭三（大阪北野病院），外西寿彦（鹿児島市立病院）の研究者諸氏の協力を得ることとなった。

## 研究主題と担当

Ⅰ）皮膚のcareを本研究の主目的として，全国的に主要施設を対象にアンケート調査を実施した。各地方をそれぞれの地方担当研究者が分担し，施設を選択し，アンケートを発送，回答を集計し，その集計のうち，沐浴に関しては南部春生が，臍処置・眼処置については赤松洋が総合的に集計した。

Ⅱ）臍帯断端の細菌叢の実態については，各研究協力者の施設で出生した新生児の臍帯断端遺残部の菌をswabで採取し，transwabで分担研究者（山内逸郎）に郵送し，佐藤幸一郎医師の技術協力により総菌数，St. aureus, St. epidermidis, G. B. S., G. D. S., 大腸菌，総嫌気性菌などの菌数を測定した。

Ⅲ）各施設のウイルス学的研究は赤松洋と鳥居昭三が担当した。

Ⅳ）臍帯断端遺残部の病理組織学的検討は外西寿彦が担当した。

## 分担研究成果

Ⅰ）新生児の皮膚のcareに関するアンケート調査の結果からは，その多様性を改めて認識するということになったが，出生直後の沐浴を行わず，胎脂をそのまま残す方針が見え始めており，皮膚のパウダー撒布が激減していることが実証された。またクレーデ氏硝酸銀点眼が消滅寸前という実態が把握された。

Ⅱ）臍帯断端遺残部の菌数は非常に少なく高い清浄度が実証された。しかし10を超える菌数が多発する施設も見られたが，careとどのように関連するものか，その結論は今後に持越された。

Ⅲ，Ⅳ）研究は緒についたばかりの段階である。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

分担研究目的

出生直後の新生児をどのように care するかは,古くて常に新しい基本的課題であるが,近年ほとんどすべての正常分娩が病院の業務の中に取込まれるようになって以来,医療の変遷に伴って,健康新生児の取扱いには幾多の変革があった。今後これをどのように取扱うべきか検討することが,本研究の課題である。特に新生児の皮膚の care－臍帯の care を含めて－を如何におこなうかが,この研究の目的である。